

平成28年度 西宮市生活支援コーディネーター活動報告

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課



地域福祉人材育成「つどい場講座」
～地域の多様なつどい場づくり～



「地域のつどい場づくり」の支援



～キッズサポーター(小4女の子)の絵(夏休みのふれぼの)～
地域共生館ふれぼの“共生のまちづくり”実践



大型お片づけサポートPJ「スーパーお片づけ隊」
～ほっとけない課題の解決に向けた取り組み～

I. 生活支援コーディネーターの配置経過等	2
II. 生活支援コーディネーターの業務内容等	2
1. 業務内容	2
2. 活動件数	2
3. 相談対応内容	4
III. 生活支援コーディネーターの具体的活動	5
1. 新たな支え合いづくり	5
2. 連携・協働に向けた取り組み	10
3. 総合相談支援体制に向けた取り組み	12
4. 共生のまちづくり実践	13
5. その他	15
IV. 一年間の活動と課題について	16

I. 生活支援コーディネーターの配置経過等

- ・国の介護保険改正（H27年4月）に伴い、地域における生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加を目指し、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘など地域資源の開発や、地域の多様な主体のネットワークの構築に向けて配置。
- ・市から生活支援コーディネーター設置事業が委託され、初年度（H27年度）は2名、2年目（H28年度）は3名の配置。（第1層エリア1名（音川）、第2層エリア2名（今井・高井））
- ・現在の社会状況や西宮市社協第8次地域福祉推進計画に関連して、高齢分野を中心にしながらも、障がいや生活困窮など地域で生きづらさを抱えている人や世帯等にも視野を広げながら共生のまちづくりを目指した活動を展開。（≠個別支援 個人の課題から地域課題へと視点を広げる）

◎生活支援コーディネーター（以下、生活支援 Co）の配置経過と地域状況等

年度	生活支援 Co 数	地区担当者数	人口	高齢化率	小学校	地区社協	地域包括支援 C (うち在介 C)	備考
平成 27 年度	2	6	484,796	22.4	40	34	15 (1)	
平成 28 年度	3	6	485,563	22.7	41	35	15 (1)	樋ノ口社協設立

II. 生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数

1. 業務内容

主な業務内容（市委託内容）

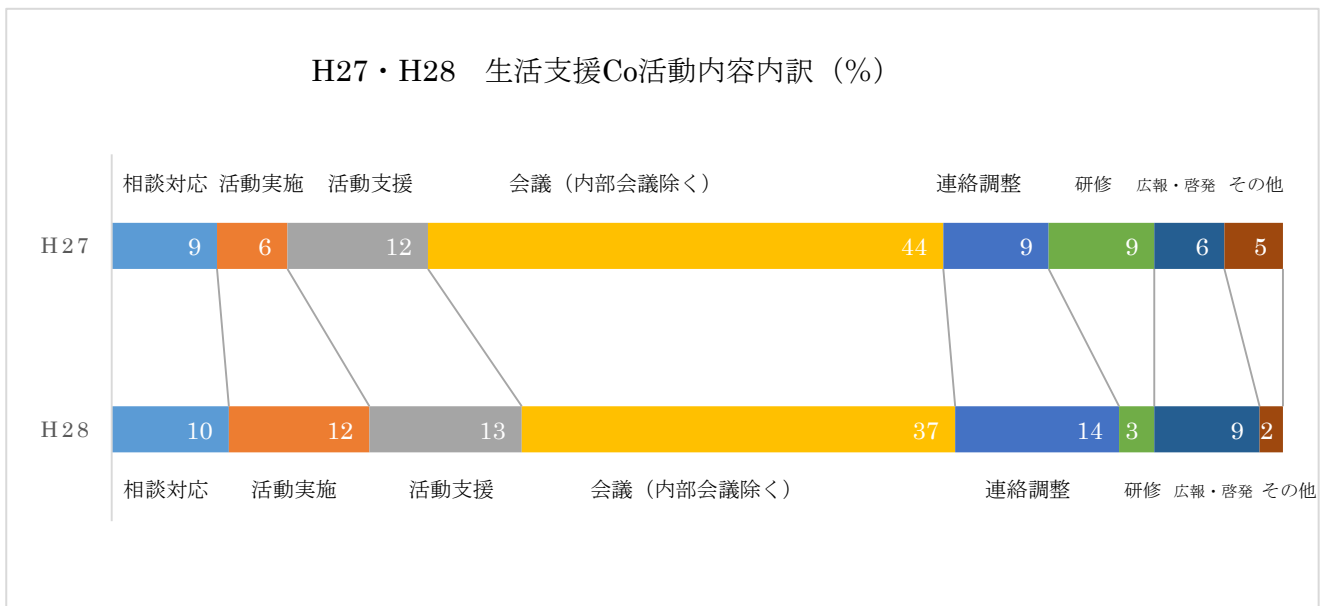
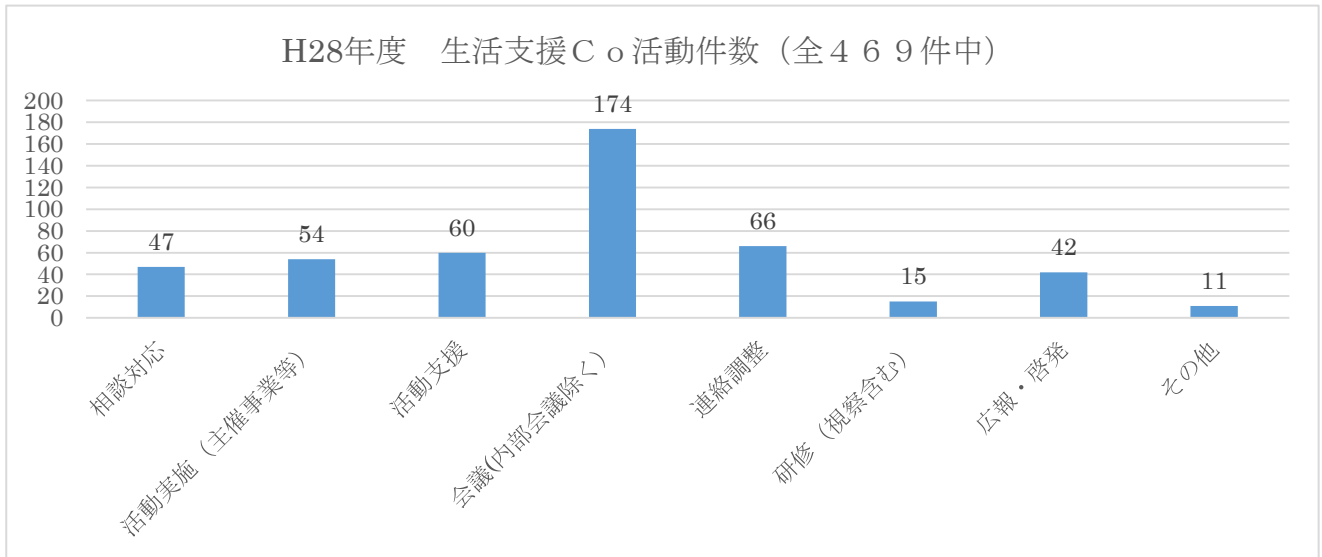
1. 地域資源の把握・開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

2. 活動件数

活動内容	今年度（H28）		※参考 前年度（H27）	
	件数	割合（%）	件数	割合（%）
相談対応	47	10%	36	9%
活動実施（主催事業等）	54	12%	23	6%
活動支援	60	13%	46	12%
会議（内部会議を除く）	174	37%	166	44%
連携調整	66	14%	36	9%
研修（視察含む）	15	3%	35	9%
広報・啓発	42	9%	21	6%
その他	11	2%	18	5%
合計	469	100%	381	100%

（参考：活動内容の詳細）

活動実施（主催事業等）・・・人材育成セミナー、総合相談体制構築に向けた研究会開催等
 活動支援・・・地区社協等活動支援、つどい場支援、グループ活動支援等
 連絡調整・・・活動者及び関係機関との調整、団体・個人等の連携調整等
 広報・啓発・・・生活支援 Co および地域づくり等の PR、大学生の演習対応等



* 総件数469件のうち、活動内容として一番多くを占めているものは「会議（内部会議除く）」である。

「会議」の内容としては、ごみ屋敷支援による個別支援者会議、市地域づくり支援事業等の地域の会議、地域包括支援センター主催の圏域専門職会議（サポートネット）、そして大学や行政等との連携会議と幅広い。

続いて多い内容は、活動者や他機関等との「連絡調整」、つどい場開設やボランティアグループ等への具体的活動に対する「活動支援」である。

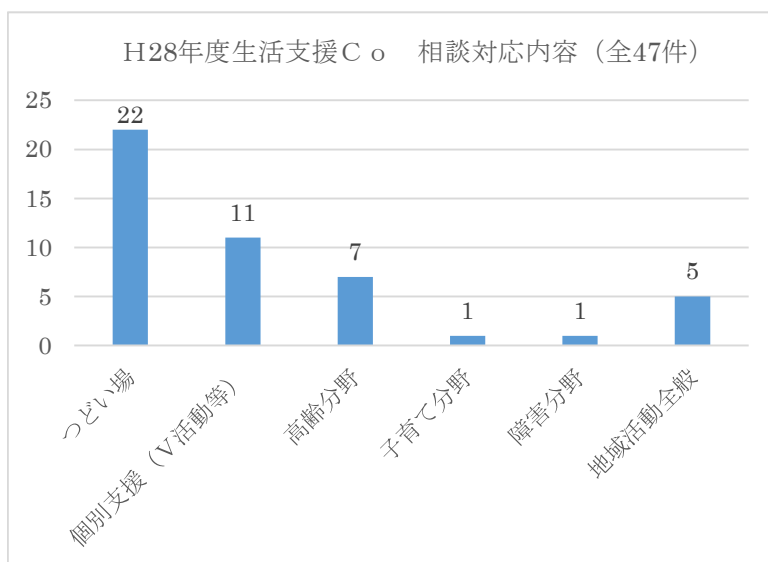
「活動実施（主催事業等）」の内容としては、市内3ヶ所で開催している介護保険モデル事業「ふれあい支え合いセンター」に関する研究会や情報交換会、社協内の総合相談支援体制構築に向けた「地域福祉実践研究会」や阪神間の生活支援Coの情報交換会などの開催に加えて、大型お片づけサポートプロジェクトによる実際の片づけ等が挙げられる。

* 生活支援Co配置1年目（H27年度）と比較すると、全体割合として「会議」「研修」が減り「連絡調整」「活動実施」「広報・啓発」が比較的増えている。

配置2年目として、具体的な取り組みや他機関等との調整業務などの活動がしやすくなってきていることが要因と思われる。

3. 相談対応内容

内容	H28 年度	※参考 H27 年度
つどい場	22	12
個別支援 (V活動含む)	11	5
高齢分野	7	5
子育て分野	1	9
障害分野	1	2
地域活動全般	5	3
合計	47	36



相談対応全47件のうち、約半数は「つどい場」関連の相談である。(昨年度は全体の3分の1)

つどい場

- ・マンション集会室を使って、みんなが集まれるお茶会をしたい
- ・あまり活用されていない自治会館を住民が集まれる場にしていきたい
- ・不登校支援を目指して、自宅でつどい場をやってみたい
- ・つどい場をしていくために、他のつどい場の実施状況を知りたい

個別支援 (V活動含む)

- ・夫 (高次脳機能障害) の居場所を求めている
- ・自分自身の介護予防のために、何らかの活動がしたい
- ・認知症が進行している近隣住民の支援について相談にのってほしい

高齢分野

- ・高齢者健康フィットネス (武庫川女子大学の地域活動) をシルバー人材センターの活動として取り入れたい
- ・特別養護老人ホームの地域貢献活動 (一般向け音楽活動プログラム) の相談に乗ってほしい

地域活動全般

- ・大学において地域福祉や共生のまちづくりについての講義 (演習) をしてほしい

※ 相談経路 ※

内容	H28 年度	※参考 H27 年度
市民・当事者	18	18
活動者 (民生委員・地区社協等)	8	5
NPO・グループ・団体等	14	7
大学・高校	4	2
地域包括支援センター	1	2
企業・行政・施設等	2	2
合計	47	36

生活支援C○の配置1年目と比べて、NPO・グループ・団体等からの相談が倍増している。主催事業が増えたことや、地域共生館「ふれぼの」での活動をとおして、関係機関の生活支援C○の認知度が少し進んだことが要因と思われる。

Ⅲ. 生活支援コーディネーターの具体的活動

1. 新たな支え合いづくり

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

① 地域の「つどい場」づくりの推進

個人の家や空き家、地域拠点等を活用して、住民同士が身近に気軽に集まれる場所としての多様な「つどい場」づくりを推進するために、つどい場に関する啓発・相談対応や「つどい場ネットワーク」の加盟促進、交流会や研究会等を行った。

◎「つどい場交流会」の開催

回	日程	参加者	内容
第1回	H28. 9. 30 (金) 13:30~15:30	23人 (市内実践者10名、一般9名、 コープこうべ1名、大学生3人)	・アイスブレイク自己紹介 ・交流会
第2回	H29. 3. 21 (火) 13:00~15:00	17人 (市内実践者8人、一般9人)	・脳トレ活動紹介 ・全体自己紹介 ・交流会

◎「つどい場普及推進研究会」の開催

- ・「つどい場」実施状況の把握と課題分析をとおして、多様な「つどい場」の普及推進するための方法を協議
- ・研究会メンバーは、市内つどい場実践者、関係機関（コープこうべ、障害者就労関連団体）、行政（福祉局、市民局、都市局）の10名で構成、徐々に参画組織（参画者）を増やしている。

回	日程	内容
第1回	H28. 10. 26 (木) 15:00~17:00	○制度・政策（市空き家等活用関連事業等）の説明 ○意見交換：「つどい場」の普及方策について
第2回	H29. 3. 21 (火) 15:30~17:30	○今年度につどい場推進事業の実施状況について ○地域のつどい場開設等の助成制度のあり方検討

◎「西宮市つどい場ネットワーク」（13ヶ所）

- ・市内つどい場の情報交換、交流、情報発信を行い、西宮におけるつどい場の普及推進を目指すためにネットワーク化を行っている。
- ・今年度、2ヶ所の新規登録あり（キタロクつどい場 あん・おしゃべりサロン すみれ）



キタロクつどい場 あん（北六甲台）



おしゃべりサロン すみれ（小松北町）

[ネットワーク加盟つどい場 実施状況 (※H29年3月現在 13ヶ所登録)]

	名称	開催場所	開催頻度	利用料	利用数	V・スタッフ数	開始年月
住み開き型	つどい場花あかり	小松東町	月2回 第1・3水 13～15時	100円 (若干変更有)	25人	9人	2011年1月
	ご近所高齢者の 集い場「いっぷく」	生瀬町	月2回 第1・3火 13～15時	100円	12～ 13人	利用人数 に含む	2012年5月
	つどい場 “ふかたに”	深谷町	月1回 第3水 13時半～15時半	200円	15人	3人	2012年7月
	撫子の部屋	甲子園口 北町	月3回 第2・3・4火 11～16時 第3火男性の会	500円 午後のみ は300円	20人	5人	2012年9月
	おむすびころりん かっちゃん家	東山台	月1回 第4水11時～	500円	15人	利用人数 に含む	2013年10月
	一休	山口町	不定期 (隔月1回程度)	500円	10人	利用人数 に含む	2015年7月
	新規登録 キタロクつどい場 あん	北六甲台	第2または第3 日曜日	500円	15人	利用人数 に含む	2016年4月
事業型	つどい場 さくらちゃん	今在家町	ほぼ毎日	500円 昼食別途 500円	不定	不定	2004年3月
	まちcaféなごみ	東鳴尾町	月～土 9～17時	100円 (飲物代)	約60 人	5～6人	2013年4月
地域拠点活用型	甲子園のつどい場 いちご畑	甲子園 2番町	第3土13～16時 (不定期開催有り)	500円	20人	8人	2014年5月
	つどい場 かすたねっと	高須町	第2・4水 13時半～15時半	100円	20人	5人	2012年1月
	シニア元気会	上ヶ原 四番町	第4土曜日 10～12時	100円	15人	利用人数 に含む	2012年
	新規登録 おしゃべりサロン すみれ	小松北町	第1・3木曜日	無料	25人	5人	2013年9月

◎「つどい場」講座（市地域福祉人材育成事業）の開催

- ・地域の支え合いづくりの第一歩として身近にできる活動である「つどい場」に焦点を当てた講座の実施。多様な「つどい場」に関心を高めながら、具体的な実践に取り組む地域人材の育成を目指した。
- ・「つどい場」への興味・関心を高めるための機会としての[オープン講座]、さらに一歩進んで「つどい場」づくりを進めたい方の実践講座として[ステップ講座]を開催。

[オープン講座]

回	日程	テーマ・講師	参加者
第1回	H29. 1. 17 (火) 14:00～16:00 市民交流センター	「地域でつどいの場を生み出す」 ～無理なく自己表現し、少しずつ他者とつながる楽しさについて 「住み開き」など文化的実践を題材に～ アサダ ワタルさん（日常編集家）	31人
第2回	H29. 1. 23 (月) 14:00～16:00 市民交流センター	「多様なつどいの場実践を聞いてみよう」 藤井 博志さん（神戸学院大学総合学部教授） パネリスト（3人） ①おむすびころりん（西宮市） 赤石 貞子さん ②ふれあいサロン“さくらんぼの会”（宝塚市） 太田八重子さん ③こどもサポートセンター（明石市） 佐々木 薫さん	34人

[ステップ講座：3回連続講座]

日 程：①平成29年2月9日（木）14:00～16:00 ②講座①・③間に視察（つどい場4ヶ所の協力）
③平成29年3月9日（木）14:00～16:00

場 所：地域共生館 ふれぼの

講 師：大岡 栄美さん（関西学院大学 社会学部 准教授）

参加者：16人（男性3人、女性13人：40代4人、50代1人、60代5人、70代6人）

- * 広く「つどい場」に関心をもってもらう目的から、一般向けのオープン講座として、広義の福祉視点をもった講師による講演を企画、広報不足も影響し参加者は定員（100人）の3割程度であった。オープン講座からステップ講座へ進む人の割合は高く、具体的に「つどい場」に取り組みたいと思っている人材が地域にいたることが分かった。
- * ステップ講座については、40～70代と幅広い参加者層が得られ、グループでの積極的な情報交換とおした仲間づくりもでき、講座終了後も活動についての情報交換につながっている。
- * 参加者自身がそれぞれの暮らす地域で何かをしていきたいという思いが強く、講座終了後に実際に「つどい場」を開設していく動きもでてきている。
- * 全市対象にした講座のあり方を見直し、重点的に活動を進めていきたい地域に絞って行う講座開催方法も含めて、今後の共生型地域交流拠点の動向も見据えながら、より効果的な人材発掘と育成方法を検討する必要がある。

◎その他

「地域のつどい場開設助成」 「つどい場」開設サポート制度の運用・交付

「つどい場啓発チラシ」発行（3,000枚）、つどい場に関する相談対応・広報等

② 大型お片づけサポートプロジェクト
(スーパーお片づけ隊活動)

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

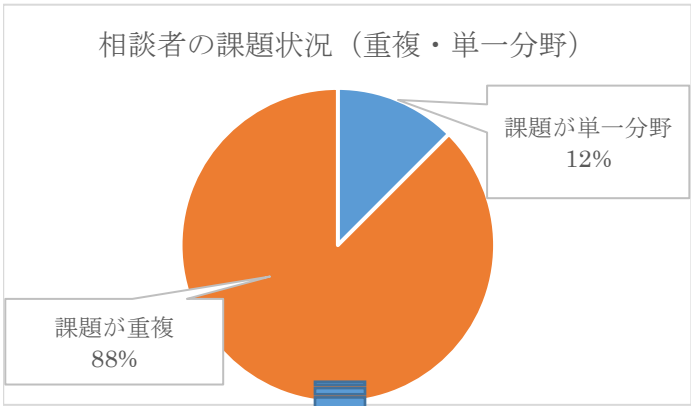
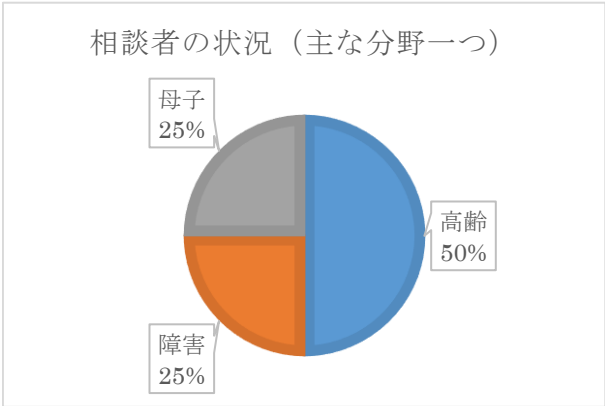
認知症や発達障害等の個人の状況に加えて、制度の狭間や社会的孤立、生活困窮等が要因となってゴミ屋敷化している世帯等への支援の仕組みとして「大型お片づけサポートプロジェクト」を平成27年度に立ち上げ。

既存の地域活動「お片づけ隊」を参考にしながら作り出したゴミ屋敷支援のボランティア活動の仕組みである「スーパーお片づけ隊」を実際に動かすことで具体的な支援（掃除）活動を行いながら、本人・家族を中心にしながら、専門職や地域住民、行政等を交えての支援の輪づくり（ネットワーク）の構築を目指している。

プロジェクトが目指すこと
「ごみを取り除くことによる“地域とのつながり直し”の支援と、ゴミ屋敷化を繰り返さないための専門職および地域住民による支援・見守り体制づくり」

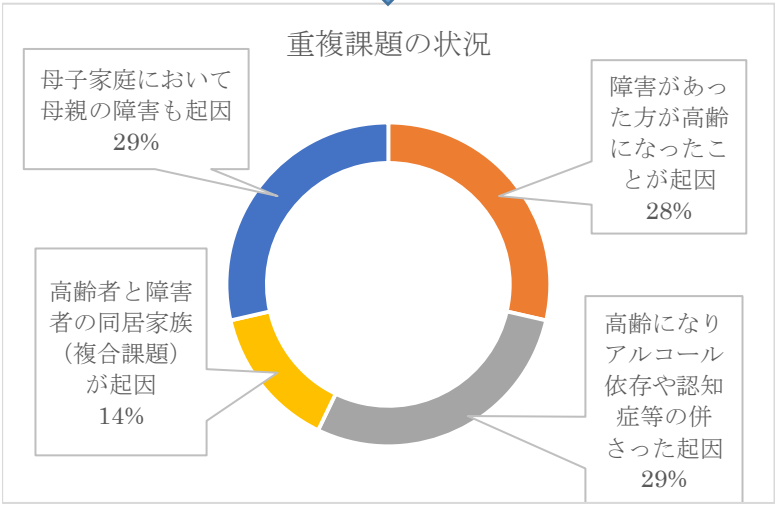
◎相談および活動事例

年度	新規ケース	継続ケース	支援者会議	片づけ実施
H27年度	4（高3・障1）	—	11	5
H28年度	4（高1・障1・母子2）	3	12	8
合計	8	—	23	13



相談経路
市社協VCから相談・・・4件※
地域包括支援Cから相談・・・3件
ソーシャルサポートセンターから相談・・・1件
※市社協VC4件のうち、2件は本人から、2件は市からの相談

制度利用状況
利用なし・・・7件※
利用あり（介護保険）・・・1件
※7件のうち3件は必要性から制度（サービス）へ繋いだ



[プロジェクトでかかわった事例の詳細：H27年度相談①～④、H28年度相談⑤～⑧]

事例	分野	対象者の状況	相談経路	会議・支援状況	現在の状況
①	障害 高齢	60代女性 一人暮らし 軽度発達障害	友人より市社協VC→生活支援Co	H27年度：支援者会議6回 片づけ実施2回 H28年度：支援者会議1回 ※片づけについては完了	見守りの継続 専門職の介入
②	高齢	70代男性 一人暮らし 糖尿病等による 記憶障害あり	地域包括支援C→生活支援Co	H27年度：支援者会議3回 片づけ実施1回 H28年度：支援者会議6回 片づけ実施1回 ※転居により支援終了	民生委員、団地管理者等との協議や支援実施により、サービス利用その後、親族の元へ転居により終了
③	高齢	70代男性 一人暮らし アルコール依存傾向	地域包括支援C→生活支援Co	H27年度：支援者会議1回 親族を交えた会議1回 ※片づけは家族で対応	地域（自治会、民生委員等）・親族との継続した見守り
④	障害 高齢	50代男性 (引きこもり) 80代母親 (当初は90代父親も同居)	本人→市社協VC→生活支援Co	H27年度：支援者会議1回 片づけ実施2回 H28年度：片づけ実施3回 ※片づけをとおした関わりを継続中	支援者会議の輪を地域住民へと広げて実施予定
⑤	母子	40代母親 小学生	行政（児童）から市社協VC→生活支援Co	H28年度：支援者会議2回 片づけ実施2回 ※専門職による家庭への介入（虐待防止）中心	課題の本質の確認 専門職による対応
⑥	障害 高齢	70代男性 車いす利用	シニアサポートセンター→生活支援Co	H28年度：支援者会議1回 ※本人の意向が難しく片づけは行えていない	支援者会議を改めて実施していく予定
⑦	母子	40代母親 高校生・小学生	行政（児童）から市社協VC→生活支援Co	H28年度：支援者会議2回 片づけ実施1回 ※母親の障害認定により制度を導入	専門職の介入 子どもへの支援を検討
⑧	高齢	70代男性	地域包括支援C→生活支援Co	H28年度：片づけ実施1回 ※片づけは完了	見守りの継続

* 高齢・障害・児童などの各分野で分けることができない困難かつ複合的な課題を抱えた世帯や制度の狭間にある要支援者が増えている状況が、「ごみ屋敷」という一つの課題からも明らかになっている。

* 相談事例について、片づけだけに着目せず、支援者会議等による専門職や住民との連携を目指していくことにより、相談者が住み慣れた地域で暮らしていくことができると共に、新たなニーズ発見から課題を放つとかない仕組みとして機能させていくことが大切である。

2. 連携・協働に向けた取り組み

①西宮市地域づくり支援事業（介護保険モデル事業）関連

○ふれあい支え合いセンター（市内3ヶ所）関連会議等への参画

1. 地域資源の開発
 2. ネットワークの構築

まち café なごみ	鳴尾東地域	運営委員会 鳴尾東つながるプロジェクト3回	12回 3回
ふくふくサロン	今津地域	プロジェクト会議 スタッフミーティング等	12回 3回
ふれぼのカフェ	安井地域	カフェミーティング	3回

○ふれあい支え合いセンター交流会の開催

市内3ヶ所で運営している「ふれあい支え合いセンター」の拠点運営者を対象に、お互いの活動状況等の情報交換や交流をとおして、それぞれの課題への気づき、振り返り、活動目的の再確認の機会とするための交流会を開催。

日時：平成29年12月12日15:30～17:00

参加者：15人（まちcaféなごみ3人、ふくふくサロン3人、ふれぼのカフェ1人、生活支援Co2人、社協・行政等6人）

○ふれサポ（ふれあい支え合いセンター）研究会

地域の支え合いづくりに向けた拠点の必要性やモデル事業の活動効果、今後の地域拠点推進に求められる市・社協の支援のあり方、地域における効果的な拠点配置の構想等を協議する研究会を実施。

参加者：まちカフェなごみ田村 幸大さん、藤井 博志さん（神戸学院大学）、北野 誠一さん、行政、生活支援Co

回	日程	研究テーマ
第1回	H28.5.13（金） 17:00～19:30	・研究会で考えるべきことの整理 ・フリーディスカッション
第2回	H28.6.20（金） 17:00～20:30	・研究会の意義の確認 ・まちcaféなごみにおける活動状況と課題
第3回	H28.8.2（火） 17:00～20:00	・市内3ヶ所のふれあい支え合いセンターの実施状況について （違いの比較等）
第4回	H28.10.3（月） 17:00～20:00	・今後のふれあい支え合いセンター構想について ・地域拠点における人材とその育成について
第5回	H29.2.20（月） 18:00～20:00	・今後の共生型地域交流拠点のあり方と推進方策について

②協力事業者による高齢者見守り事業(西宮市との協働事業)

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

新聞配達や宅配等の事業者および店舗や病院・薬局等の協力（事業登録）により、地域で暮らす高齢者等の異変を発見した場合に地域包括支援センターへの通報連絡をすることで早期に支援につなげていくためのネットワーク構築を行った。

登録事業者：40 事業所(2 事業所増)
 通報件数：5 件
 見守り連絡会：平成 29 年 3 月 16 日 参加者 15 人

③社会福祉法人の地域貢献等におけるネットワーク化について

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

市内の社会福祉法人のネットワーク化や連絡体づくりを目指して、複数の施設（社会福祉法人）に対して地域貢献に関するヒアリングを行うとともに、市内の（高齢者）施設長会で協議会設立に向けての説明、県社協県経営協主催のセミナーに参加、および社会福祉法人法制度改革に関する担当課である市法人指導課等の行政担当部署と情報交換の機会をもった。

ヒアリング施設：3 施設（3 法人）

高齢施設 2（セントポーリア愛の郷・山口苑） 保育所 1（東山ぼぼ保育園）

- * ヒアリングをとおして、いずれの法人からも地域貢献に関する積極的な思いを感じることができたが、高齢者や児童などの分野や法人規模の違いにより、連絡体への主体的参画が可能などところと、具体的なメニューへの参加を希望するところとがあることが分かった。
- * 国の制度改革の動向やふれあい支え合いセンターへの法人支援等を見据えながら、地域レベルや全市レベルでの法人が果たすべき役割を検討するとともに、同じ社会福祉法人という社協の立場を生かしながら事務局機能を果たしながら法人のネットワーク化を具体的に進めていく。
- * 協議体づくりに向けては、各法人の主体的な参画を促進するために、先進地の状況把握や多様な市内法人からの聞き取りも行いながら、準備会の立ち上げから丁寧に行っていく必要がある。

④大学・NPO との連携（会議・事業）

- 1. 地域資源の開発
- 2. ネットワークの構築
- 3. ニーズと取り組みのマッチング

武庫川女子大学	鳴尾地区高齢者健康支援ネットワーク	全体会議 4 回 分科会議（体操・音楽）7 回
関西学院大学 人間福祉学部	ソーシャルワーク演習	会議 1 回 講義等 8 回
関西学院大学 社会学部 NPO 法人 日本災害救援ボランティアネットワーク	東日本大震災県外避難者支援活動および社会学フィールドワーク等での連携	会議 10 回 事業実施 10 回 講義等 1 回

3. 総合相談支援体制に向けた取り組み

2. ネットワークの構築

住民や当事者からの相談・ニーズをもれなく受け止め、その課題解決に向けて社協内各部署の連携はもちろん、地域住民や専門機関、行政等との連携・協働により支援を行う「総合相談支援体制づくり」に向けた第1歩として、社協内の特に相談窓口対応職員を対象にした研究会を開催。

研究会で明らかになった課題をもとに、社協内の部署横断によるプロジェクトを実施、社協体制の整備も含めて「総合相談窓口のあり方」「人材育成」「圏域会議」等の協議を今後も進めていく。

[地域福祉実践研究会]

回	日時	内容	参加人数
1	H28年5月24日(月) 18:00~20:15	・講義「西宮市の権利擁護の経過と現状」 ・講義「社協計画と市計画の関係と目指すもの」 ・グループ討議「総合相談支援体制づくりに向けた課題」	23人
2	H28年6月28日(火) 18:00~20:15	・講義「システム検討法について」 ・事例紹介(共生のまちづくり課) ・グループ討議「事例のシステム検討(課題は何か)」	32人
3	H28年7月26日(火) 18:00~20:30	・(事前課題)システム検討の報告 (権利擁護支援センター事業課・相談支援事業課) ・グループ討議「総合相談支援体制を考える」	31人
4	H28年8月24日(月) 18:00~20:30	・(事前課題)システム検討の報告 (地域福祉課(VC)・総合相談支援センターにしのみや) ・グループ討議「システム検討から導き出せる共通課題(および対応策)について」	26人
5	H28年9月26日(月) 18:00~20:30	・(事前課題)市社協が目指す相談支援に向けた取り組み指標における作業結果の報告(全課) ・グループ討議「各課発表の振り返りと共通課題と対応策」	30人
6	H28年10月24日(月) 18:00~19:30 19:30~交流会	・実践研究会のまとめ ・社協体制整備プロジェクトについて ・意見交換「今、各課で課題に思っていること」	21人

[社協体制整備プロジェクト(継続中)]

- ・日 程 : H28.11~H29.3月(計5回 概ね第4月曜日 18:00~20:30 実施)
- ・メンバー : 12名(社協内全8課より主に係長級)
- ・協議内容 : 相談窓口体制の在り方
人材育成、研修体制等



4 共生のまちづくり実践

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

平成 28 年春に共生のまちづくりを目指して開館した「地域共生館ふれぼの」において、子どもから高齢者、障害のある人など地域住民誰もがつどえる場づくり、そして地域活動センターふれぼの通所者（重度障害者）と地域住民とが交流できるような運営や行事を行った。

1 階カフェでは市地域づくり支援事業を受託、専任職員を配置し、高齢者の見守りや介護予防も取り入れながら地域拠点としての機能発揮ができる仕組みづくりの支援を行った。

運営に関しては、地域の住民や関係機関が参画した推進協議会で協議を行うとともに、推進協議会から生まれた各部会による体操や介護者の集い等の具体的活動、それ以外の個人活動（ふれぼのサポーター）の参画を促進した。

また、人材育成や学びの機能発揮を目指したセミナーを開催するとともに、ふれぼの視察の際には、館内見学に終わらず、市内各地域における共生のまちづくり実践や地域の支え合いを推進していく必要性を学ぶことができる研修を組み込んだ。

①基礎情報

- ・ふれぼのカフェ（H28 年 6 月～市地域づくり支援事業受託）：平均 19 人/1 日
- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 総利用者数 | 4,049 人（男性 2,001 人 女性 2,048 人） |
| 内訳：高齢者（65 歳以上） | 1,725 人（男性 856 人、女性 869 人） |
| 一般（18～64 歳） | 2,251 人（男性 1,106 人、女性 1,145 人） |
| 子ども（17 歳以下） | 73 人（男子 39 人、女子 34 人） |
| 登録者数 | 249 人（男性 101 人 女性 148 人） |
| 内訳：高齢者（65 歳以上） | 129 人（男性 49 人、女性 80 人） |
| 一般（18～64 歳） | 110 人（男性 46 人、女性 64 人） |
| 子ども（17 歳以下） | 10 人（男子 6 人、女子 4 人） |
- ・交流スペース利用人数：6,755 人（平均利用者 27 人/日）
 - ・ふれぼのサポーター人数：26 人（一般 23 人 障害当事者 3 人）
 - ・視察状況：43 件 延べ人数 549 人
 - ・ふれぼの通信発行 第 1～第 3 号（隔月 1 回発行・平成 28 年 11 月開始）



②全体行事

○ふれぼの縁日

平成 28 年 8 月 19 日（金）15:00～19:00

来館人数・・・約 300 人

地域活動センター通所者による居酒屋、ドリンクパーラー、ワークショップ開催
茶論さざなみ、ふらっとパーク、子どもサポーターの催し参加、市内作業所の出店
サポーター、実習生、ボランティア、地域活動センター通所者の家族などの協力

○ふれぼの感謝祭（1 周年）

平成 29 年 3 月 24 日（金）11:00～16:00

午前の部（式典）・・・推進協議会 13 人、本人・保護者 33 人、関係者 2 人、職員 21 人＝69 人

午後の部（ピクニック大会・スタンプラリー・カフェ無料イベント）・・・来館 140 人 カフェ利用 134 人

③地域共生館推進協議会の開催

回	日程	参加数	内容
第1回	H28年6月14日(火) 18:30~20:00	12人	・地域共生館ふれぼのの体制について ・各部会について進捗状況報告等 ・ふれぼのカフェについて
第2回	H28年9月29日(木) 18:30~20:00	13人	・ふれぼの全体の活動状況について ・今後の予定について (サタデーセミナー、パネル展示)
第3回	H29年2月1日(水) 18:30~20:00	14人	・ふれぼの全体の活動状況について ・今後の予定について(震災展示、1周年行事等) ・広報について

④推進協議会部会及びサポーターの活動支援

○介護者の会(認知症カフェ)「茶論さざなみ」

毎月第3金曜 13:30~15:30 11回 255人(一般 171人 ボランティア 84人)

○多世代交流「ふらっとパーク」

隔月第2土曜日 13:30~15:00 6回 162人(一般 108人 ボランティア 54人)

○西宮いきいき体操「すまいるふれぼの」

毎週水曜日午前中 39回 1,926人

○ミニライブラリー ほのぼの文庫

・本の貸し出し 登録者 29人

・語り部屋(特定のテーマに関する本や出来事について語るイベント)

概ね第4月曜日 11:00~12:00 参加者 大人12人 子供29人 ボランティア2人

○こどもひろば(平成29年2月17日より実施)

毎週金曜日 16:00~17:30(春休み期間は14:00~17:00)

計6回 23人(小学生17人 ボランティア6人)

⑤サタデーセミナー(人材育成)

- ・人材育成(人材発掘)と「ふれぼの」における研修機能を発揮することを目的に研修会を開催
- ・市内での積極的な福祉実践者やコミュニケーションによる地域や人のつながりづくりを進めている講師に焦点を当て、一般市民に加えて、福祉関係者、専門職の参加を得ることを目指した。

回	日程	テーマ	講師	参加人数
1	H28年6月18日(土) 15:00~17:00	「障害者差別解消法」ってなに?	障害者総合相談支援センターにしのみや センター長 玉木 幸則	26人
2	H28年7月16日(土) 15:00~17:00	“つどい場”のおもしろさ、伝えます!	NPO法人つどい場さくらちゃん 理事長 丸尾 多重子さん	33人
3	H28年8月20日(土) 15:00~17:00	どの子どもイキイキ楽しく過ごせる場を!	障害のある子をもつ親の会「ゆうきっこクラブ」 代表 野草 美千代さん	8人
4	H28年9月24日(土) 15:00~17:00	“認知症”正しく理解していますか?	明和病院 訪問看護センター明和 主任 中島 淳美さん	17人

5	H28年10月15日(土) 15:00~17:00	ハートフルの歩みとこれから・・・	NPO法人「ハートフル」 副理事長 水野 燿子さん	9人
6	H28年11月19日(土) 15:00~17:00	人と人をつなぐ“ことば”の魔法	フリーアナウンサー 結城 将(あきら)さん	14人
7	H29年1月14日(土) 10:00~11:30	笑いとコミュニケーション	フリーアナウンサー 竹之内 由加さん (アマチュア落語家大川亭さくらさん)	20人
8	H29年2月25日(土) 10:00~11:30	災害に強いまちづくりを目指して	認定NPO法人 日本災害救援ボランティアネットワーク 理事長 寺本 弘伸さん	20人

- * 開館直後はフリースペース等を住民が利用することが少なかったが、夏休みやイベント開催をとおして、小学生や乳幼児を連れた母親たち、地域の作業所に通う障害当事者、カフェで知り合った高齢者同士が定期的に将棋を楽しむ等、様々な方が気軽に館で過ごす姿が見られるようになってきている。
- * ふれぼの縁日、感謝祭等の地域交流行事では、障害当事者が対面で接客することにより住民との交流を図ることができたとともに、館内で活動するグループやサポーターにとっても自分たちの役割や居場所の認識を深める機会になった。
- * ふれあい支え合いセンターとして運営している「ふれぼのカフェ」への住民のサポーター参画を少しずつ進めてきているが、今後、推進協議会における「カフェ部会」を明確に位置づけることで、地域拠点としてのカフェの役割を伝えていき、より住民主体の活動に移行していく。
- * ふれぼの活動状況や機能をわかりやすく伝える広報の工夫や、ふれぼのサポーターがより自発的に役割をもって活動できるような環境整備を行いながら、ふれぼのから全市域に向けて“共生のまちづくり”を発信・普及していけるような検討を進める。



5. その他

◎阪神間生活支援コーディネーター情報交換会

- ・運営員会 7回 (8/1・9/5・10/20・11/15・12/21・2/22・3/29)
- ・情報交換会 3回 (5/31・10/28・3/14)

◎サポートネット(中央・瓦木・鳴尾)への参加

◎西宮市地域自立支援協議会への参画

◎普及・啓発活動(各地域における研修の講師等)

◎各種視察および研修参加

◎地区担当者との連携会議、事例検討会、専門職との情報交換会 等

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築

IV. 一年間の活動と課題について

～一年間の活動～

- ・「地域のつどい場」を増やしていくための取り組みの一つとして、新しく「つどい場講座」を企画・実施した効果もあり、身近な地域での「つどい場」が少しずつ増えたり、「つどい場」への興味・関心が高まりつつある。「つどい場」の機能を集約しながら開館した「地域共生館 ふれぼの」においては、一部、市地域づくり支援事業の委託を受けることで、喫茶活動を通しながら、高齢者をはじめとする子ども、障害者等、様々な地域住民や当事者が気軽に集まる場となってきた。
- ・市地域づくり支援事業のモデル事業（ふれあい支え合いセンター）については、地域共生館ふれぼのにおける取組みを模索しながら展開、他の2モデル事業（鳴尾東と今津）の会議・活動等に地区担当者と共に参画した。
また、モデル事業の活動状況や効果、全市での地域の支え合いづくりに向けた地域拠点の広め方や効果的な拠点配置構想を協議する研究会を実施するとともに、モデル実施している3ヶ所のふれあい支え合いセンター活動者の交流会を開催することでそれぞれでの活動や活動者の意識の高まりを目指した。
- ・地域の中で、高齢・障害・児童などの各分野に分けることができない困難な課題を抱えた世帯や、制度の狭間にある要支援者が増えている中で、ごみ屋敷支援の仕組みを活用して、地域住民、専門機関や行政等とのネットワーク連携による具体的支援へと繋げた。
- ・社協内の各部署間（相談窓口）の連携について、現状把握と円滑な連携を行うための改善策を考えていく機会として「地域福祉実践研究会」を実施、今後の具体的な連携の仕組みを検討する係長級を中心にした社協内の部署横断型プロジェクトにつなげて協議を行った。
- ・阪神7市1町の生活支援コーディネーター間の活動に関する情報交換を目的にした会を自主的に立ち上げ、行政や地区担当者等の参画も得ながら、情報交換に加えて、事例発表や活動の手法を学ぶ機会をもった。

～今後について～

- ・生活支援コーディネーターの活動について、圏域を設定して活動を進めるとともに、活動の分析や評価、地区担当者との連携の在り方について検討を行う。
- ・多様な団体とのつながった活動を推進しながら、新たに社会福祉法人の全市ネットワークの構築や企業、大学等との地域連携の促進に積極的な取り組みを行う。
- ・外部連携および社協内部の連携促進に向けての協議を継続して進めていくことで、SOSに気づき SOSを漏らさない総合相談支援体制の構築を進めるとともに、全市の専門職連携を促進していく。
- ・地域活動者の高齢化、固定化という課題をふまえながら、新たな地域の支え合いづくりに向けた人材育成や発掘に力を入れていく。